

1. 視察の概要

- ・視察実施日：令和6年7月2日火曜日 14:00－15:00 日帰り視察
- ・視察項目：三浦市公共下水道事業コンセッション事業について
三浦市上下水道部
- ・視察の理由：政策の柱に上下水道事業の経営への提言があり、常時コンセッション事業については、最新事例の研究をしているため。
- ・本市へのメリットとして：コンセッション方式の導入の有無ではなく、最新事情を研究することにより、上下水道事業の健全経営を維持することが大切。

2. 事前の質疑と質問：以下の通り

・質疑の概要として

- ①そもそもなぜ導入に踏み切ったのか。
- ②東部処理区にした理由はなにか。最終処分場との関係なのか。
- ③民間事業者選定の経緯はどうだったのか。
- ④行政の介入部分は、どれくらいあるのか。
- ⑤経営効率の見通しは、どう見積もったのか。
- ⑥メリットとデメリットをどう整理したのか。
- ⑦事業開始から1年、成果や課題の現状はどうか。
- ⑧導入前他の自治体の事例研究はどの程度実施したのか。

・各論その1：三浦市下水道コンセッション株式会のホームページより

- ① 企業の筆頭株主から、民間の建設や水ビジネスに強い企業が主体とわかる。
行政とは離れた完全な民間企業と考えてよいのか。
- ② 経営ビジョンに、三浦市の東部下水処理場中心に展開とある。
事業の中で、独立採算制が可能なのか。

- ③ 企業は、三浦市の中での事業展開のみか、三浦市以外からも仕事を受注することがあるのか。事業計画書をみると、三浦市のみと考えられる。
- ④ 行政としては、三浦市内の下水道事業で、東部下水処分場以外にも新しく事業の委託契約を結ぶ予定はあるのか。事業計画書をみるとまずは、東部下水処分場に関して、軌道に乗せることが優先と思える。
- ⑤ 三浦市としては、今回のケースをモデルとして、全国的に同様の方式を採用する自治体が増えてくるという考えのもと、事業展開をしているように思えるが、実際はどうなのか。

・各論その2：三浦市下水道課のホームページより

- ① 令和4年7月29日公表の優先交渉権者の提案 PDF に、運営対価1000万円とあるが、実際にこの金額で契約締結したのか。
(コンセッションは、運営対価を支払うことが多い、運営対価がどう設定されていくかは、わからないため。)
- ② 市民や利用者が支払う下水道使用料は、据え置きと考えてよいのか。
- ③ 資料をみると、平成29年あたりからののがホームページ上掲載されているが構想、計画、実施まで、7－8年かかると考えてよいのか。
- ④ 今後、他の自治体が同じモデルを検討していった場合、どういうところに留意すべきと、助言していくのか。(アドバイスを求められることが多いと推察した。)

3. 現地の説明

- ① 上記の質疑や質問に関する回答を中心に、資料をみながら説明を聴く。
- ② 人口が減少して、この先、下水道経営が危うい、改善しなければという意識があり、手法を検討しているうちに、コンセッション方式となった。
住民サービスは、従来と変わらず、広報活動やサービスなど民間の得意分野を活かしている。
- ③ まだ導入して間もないため、行政の職員と民間企業の意見交換を頻繁に実施している。引継ぎ段階ということもあり、行政の業務量や忙しさに現状大きな変化はない
そして、導入事例が国内に少ないこと、三浦市でも導入して、年数が経過して

いないことをふまえると、実際の効果の検証には数年かかる。

- ④ 各自治体、下水道の普及率が異なる、水道事業全体として地域事情があることから、コンセッションが最適な手法かは、地域の内情を熟慮する必要がある。現在、比較的新しい手法での展開のため、他自治体からの問合せも多い。手順としては、包括的業務委託を経て、コンセッション導入がのぞましい。今後、導入を検討する自治体が出てきた場合、ある程度ノウハウを伝授できるのでゼロからスタートするよりも、早期に実現できると考えられる。

4. 所感

- ① コンセッションを含む、下水道事業の研究は、今後も継続する。
- ② 9月の第3回定例会で、三浦市の事例研究をふまえた一般質問を実施する予定である。
- ③ 現地を訪れて実際に話を聴いてみないと、わからない点が多かった。特に現在公開されている情報では見えてこない部分が重要と感じた。
- ④ 特に、担当者の本音を相手の顔を見て聴くことができるので、留意点や苦勞など、大変有意義な情報が多い。

以上

